日本クリスチャン・アシュラム連盟

イエスは主なり

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈祷運動である。

開心・静聴・充満・献身・奉仕　130号

『一日は千年、千年は一日』

ペトロの手紙二3：1－16

大石嗣郎

2000年という稀なるミレニウム（千年祭）を迎えて、既に2002年暮れが近づいている。2000年にはインド・サッタルに於いてS・ジョンズ博士が創設されたアシュラムの70周年記念を済ませた。21世紀に入って折目をつける記念行事が次々と催され、また催されようとしている。その中で国際クリスチャン・アシュラム第11回記念を2004年に日本（神戸、関学千刈セミナーハウス）にて催される予定が、世界情勢不安のため中止のやむなきに至った。しかし2005年には、S・ジョンズ博士によって始められた日本クリスチャン・アシュラム連盟50周年を日本の兄弟姉妹と共に祈りの中に計画中です。

過去の日本クリスチャン・アシュラム連盟の歴史を顧みると、1978年に第3回国際クリスチャン・アシュラムを御殿場の東山荘にて、世界各国の代表者の参加のもとS・マシューズ監督、W・バーグ牧師（米）、S・ニールソン牧師（スウェーデン）、D・Pタイタス牧師（インド）、故G・ハンター牧師（カナダ）、故P・ワグナー牧師（米）その他韓国、台湾から数名の参加者があり、初代教会のコイノーニヤ（霊交）を現実に体験し、神の国のヒナ型を見た思いでした。それを契機に日本各地においてアシュラムが盛んに行われ、今日に至っている。日本クリスチャン・アシュラム連盟は既に25周年を1980年に、35周年を1990年に、40周年を1995年に、そして既報の如く2005年に第50周年を迎えることになる。日本の記念行事と平行して、第4回国際クリスチャン・アシュラムをインド・サッタルで1980年に、第5回をフィンランドで1982年に第6回をアメリカ・セントシモンで1986年に、第7回を韓国で1988年に、第8回をカナダ・ハリファツッスで1990年に、第9回をスェーデン・エンチェビングで1994年に、それぞれ着実に行われた。

アシュラムの歩みは千年一日の如く、半世紀以上も歩んで参りましたが、「主のもとでは一日は千年のようで、千年は一日のようです」（第2ペトロ3章8節）のみ言葉の如くキリスト教が活躍する限りはアシュラムは続くし、霊的運動は各国毎に型は異なっても、その精神と仕方にますます教会に根を降ろして、すべてのクリスチャンが心より「イエスは主である」と「イエスは実に甦った」という言葉が高らかに称えられることによって教会が霊的に発展されることを彷彿として確信して止みません。ハレルヤ。

霊想

「わたしの恵みはあなたに十分」
Ⅱコリント12の7

香櫨教会牧師　古河　治

このたび関西地区から奉仕をさせて頂く幸いを心から感謝いたしております。私がアシュラムということに、最初に出会ったのはだいぶ前のことでありまして、一九五七年昭和三二年広島の広島女学院の牛田という分校、小さい所で三泊四日の集会に誘われて参加したのがアシュラムということとの出会いでありました。

会が終わり、会場を提供してくれました広島女学院の大学長さんが、スタンレー先生に「先生、お元気ですが、お幾つでいらっしゃいますか？」と聞いたのであります。そしたら先生は即座に「七三歳でございます。」と言われました。続いてこの大学長さんが「先生、そのお年で日本に来られて足腰痛いとか、疲れたとか、色々ご不自由なとこがあると思いますが、如何でございましたか。」と言う風なことを質問しました。するとスタンレー先生は次のように言われたのです。「私は二〇代で神様の恵みに接して献身をし、伝道者の一員とさせて頂きました。神様は若い経験のないわたしを十分に励ましてお用いくださいました。三〇代ではさらに恵みを加えて若き時のいろいろの失敗をもプラスにして十分に神様はお用いくださいました。四〇代ではそれに思慮を加えてよき伝道と教会を神様はお与えくださいました。五〇代では神様は世界宣教の重荷をお与えくださいまして全世界にご奉仕をさせて頂くそうゆう門戸を開いて下さいました。六〇代では色々世界の行き詰まった紛争のそうゆう中でますます神様は尊くお用い下さいました。七三歳の今、私は神様にお願いし、お祈りしていることは今まで行くことの出来なかった福音の伝わっていない、共産圏の多くの魂の救いのために門戸が開かれて、そのことのためになお一〇年寿命をお与え下さいと祈っています。」と言うことでした。何処を取っても疲れたとか、えらいとか、日本の国は悪いとか、何か出て来そうなことなのに、一つの事もない。二〇代良かった。三〇代更に良かった。四〇代は更に充実をして神様はお用い下さった。五〇代では更に世界に門戸を開いて頂き、六〇代では色々とこのように御用をさせて頂いていると、それで現在七三歳でこれから今まで行けなかった共産圏までどうぞ福音を述べ伝えることが出来るよう、そうゆうために門戸を開いて頂けるように、更にそれを可能としていただけるように「もう一〇年寿命を延ばして下さい。」とお祈りをしていますと言う事でございました。

アシュラムは何であるかと言うことをスタンレー先生は明確にお示しになりました。

「神様、即ちご臨在のイエス様にすべてを明け渡して、お従いした時に神様はどの様にあらしめて下さるか。」と言うことが判るように短く明確にお示しになりました。

私は大阪で育ちまして両親はクリスチャンでありました。中学五年生の三学期にいわゆる卒業試験と言うのが高校入学試験に備えて一月の中ごろに行われるのでありますが、それで、明日から卒業試験が始まるという時に風邪を引き、それがもとで結核となり六年間の闘病生活を強いられました。入院後次第に悪くなり、朝少量ずつ喀血しました。死者を運ぶ車が病棟の廊下をカチャカチャいう音を立てながら遠ざかって行く、その音の中に死の恐怖を感じました。

九月の一〇日頃だったと思いますが鳥取市が大地震のため全滅し、火災で二千人以上の死者が出たとのことでした。私の両親は鳥取出身なのです。親戚、知人に多数の犠牲者が出ました。しかも丁度地震があったその同じ日に、大阪の母の元に海軍省から電報が参りました。兄が戦死したと言う親電が入ったのであります。私はその時に何故こうなるのか、何故か何故か叫び続けておりました。自分の死に対する恐怖と言うよりも、この理由が判らないのです。狂い叫んでおりました時に、身近に一冊の本があるのに気がついたと言うよりも、どうゆう訳でその本を手に取ったか判らないのでありますが、タイトルには「残されたとげ」と書いてありました。著者は賀川豊彦で、裏表紙の中に聖書の言葉が書いてあったのです。「そこで高慢にならないように私の肉体にひとつのとげが与えられた。それは高慢にならないように私を打つサタンの使いなのである。このことについて私は彼を離れさせて下さるようにと三度も主に祈った。ところが主はいわれた。『わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱い所に完全にあらわれる。』この言葉に触れてわたしは暗黒の中にひとつの電光と言うか稲妻がピューと走ったのを覚えました。意味は分からないけれど「何故か、何故か」叫び続けていたわたしの心の中に、突然聖なる方のご臨在を感じました。

六年間の療養生活のために体は過酷な仕事が出来なくなりました。そうゆう中に神様は献身への道をお示しになりまして、私は神学校に行って、ついに牧師とさせられてそして第一回の任地として広島県の福山の教団福山延弘教会の牧師として奉仕をしました。その翌々年にスタンレー・ジョウンズ先生のアシュラムに出会ったのであります。

その後香櫨園教会で開拓伝道をしました。しかし六年後無理がたたって結核が再発しました。六時間にわたる大手術が行われました。幸い胸郭成形手術は免れましたが、何でこうゆう事が起こるのかと言う思いがしました。しかしいつも「わが恵みなんじに足れり」だったのです。

丁度七年前の一月、わたしが七二歳になりましたし、神様が弱いわたしをここまで助けてくださった感謝として、どの様に引退すべきかを考え、それを具体化するために事を始めました。その時にあの阪神大震災が起こりました。

それまでの三〇数年の伝道牧会の成果、何もかも一気に廃墟になりまして、ぐずれたそうゆう所に立たずむとき、いったいどうすればよいのか、その時に神様は、やはりこのお言葉で私に答えられたのです。「わが恵みなんじに足れり、わが能力は弱きうちに全とうせらるればなり」。この地震のこうゆうふうな本当に極限に立たされて、呆然たたずんで居るその時に、人間の目にはどうしたらよいのか分からないが、しかし神様の目は、造り主なる神様はちゃんと御手の内にそのご計画はあるわけでありまして、そのことを自分が誇り高ぶって何でも出来ると思っているそうゆう時ではなくて、打ち倒され打ちひしがれてどうにもならない弱さを覚えている時にこそ、神様の恵みが全うされるのであるということを体験いたしました。（第四〇回関東アシュラム「福音の時」（Ⅰ））

第七回富山アシュラム報告

若林　節子

第七回、富山アシュラムは例年の如く会場をインテック大山研修センターで、九月十三日、十四日と一泊二日のプログラムで開催することが出来ましたことは感謝です。

主題は「神から生まれた人は皆、世に打ち勝つ」ヨハネ　五：四、五

奉仕者　後宮俊夫師でした。

〔アシュラムのご案内より〕

キリスト者の信仰生活で何より大切なことは、主イエス様とのお交わりです。聖霊によって私達一人一人と共に居たいと熱望される復活のイエス様を日ごと朝ごとに心にお迎えし、聖書を通してその語りかけを聴きましょう。この終末の時代、私達を取り巻く状況はますます厳しくなって来ております。

主が私達に与えて下さった信仰は、「世に打ち勝つ信仰」です。みことばに静聴しつつ、この事実を今一度確認し、世にあってキリストの証人として励もうではありませんか。アシュラムでみことばの恵みを分かち合いましょう。

祈りの細胞は三班で、A班のリーダーは岩城輝雄兄。B班、加藤喬子姉。C班、山本順子姉。各班五名乃至六名でした。

早天祈祷の奨励は、本田英一郎師でした。

富山アシュラムの特長と申しもうしましょうか。毎年しかも一年に一回の顔合わせが出来る。おたがい親しみを持って信仰の打ち明けた交わりが出来ることです。第一回から今まで続けて参加されたことがまことに有り難くうれしいことです。共に愛ある交わりを信仰の成長に励みつつ、この絆を大切に守って、アシュラムの集会が祝されるように祈ります。

因みに一回から七回までの奉仕者と主題は、

第一回主題「わたしはメシヤに出会った」ヨハネ一：四一

奉仕者　村瀬俊夫師・中谷哲造師・三浦美子雄師

第二回主題は「賛美しながら戻って来た」ルカ一七：一五

奉仕者　田中恒夫師

第三回主題「この人による以外に救いはない」使徒四：一二

奉仕者　後宮俊夫師

第四回主題「神の国を嗣ぐ」ヘブライ一二：二八

奉仕者　大石嗣郎師

第五回主題「あなたはメシア生ける神の子です」マタイ一六：一六

奉仕者　宮本義弘師

第六回主題「わたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」マタイ一一：二八

奉仕者　横山義孝（ナリ）師　村瀬俊夫師

これからも愈々祝福されて富山の地にイエス・キリストの福音が述べ伝えられ、まことの信仰への道が広まり、救いの御業が、現れますように祈ります。

第40回関東アシュラム報告

島津　吉成

第四〇回関東アシュラムは、九月二三日～二五日、「イエスは主である」の主題のもと、今年も、山崎製パン箱根山荘で行われました。参加者は三二名と、少し少なかったのですが、第四〇回という節目のときにふさわしい、充実した、恵あふれるときとなりました。

今回は、関西アシュラムから古河治先生を助言者としてお迎えし、二回の「福音の時」でお勧めをいただきました。最初の「福音の時」には、「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」（Ⅱコリント一二章九節）から、病の中から信仰に導かれたお証しや、お孫さんの事故やご病気を通してあらわされた主の恵みをお語たりくださり、二回目の時には、阪神大震災で被災した中から立ち上がられたお証しを中心に、「あなたのなすべき事を主にゆだねよ、そうすれば、あなたの計るところは必ず成る」（箴言一六章三節）とお勧めくださり、参加者一同、主の真実に触れて、涙と共に主の恵みに包まれました。

では、参加者の声をお届します。

「日々の生活の中では、つまらぬ事には口を出し、肝腎な時には逃げ出す罪深い私に、第四〇回関東アシュラムでは、主は私にひとつの試練をお与えになった。それは、『讃美と証の集会』で、お証しをする恵みにあずかったことでした。それは私にとっては新生の恵みを新たに覚えるときとなり、大きな感謝と喜びに変わったのである。『イエスは主である』、この信仰のもとに心を開き、祈るとき、私は至福の極みに達するのである。今回のアシュラムでの体験をこのようにお分かちしたい。」

（飯田正意）

「今回の関東アシュラムには、例年以上の求めを持って臨みました。私自身、迷いのただ中にあり、苦しかったのですが、神様は私の望みを越えたお答えを古河先生の福音の時を通して与えてくださいました。いただいた二つのみ言葉は、『わたしの恵みは、あなたに十分である』（第二コリント一二章九節）、『あなたのしようとすることを主にゆだねよ』（箴言一六章三節）です。み言葉を握らせていただくということを初めて実感でき、これからの歩む方向に光が見えたようです。

神の家族としてのアシュラムの集まり、この祈りに支えられていることを改めて思い、感謝に満ちた、忘れがたい集会となりました。」

（滝島一穂）

編集後記

暫く発行が遅延しておりましたことをお詫び申し上げます。このたび有馬歳弘師のあとを受けて、本誌編集を担当することとなりました。愛兄姉のご協力を得て、年四回の発行に出来るだけ近づけたいと願っています。ご加祷下さいませ。

横山　義孝

東京都目黒区中央町1の21の10
碑文谷教会気付
日本クリスチャン・アシュラム連盟
振替口座　東京〇一〇〇—一—四五五八
理事長　大石嗣郎
編集人　横山義孝
定価　一部60円　〒80円